

アナログ再構成後の活用(9) ーベートーベンを聴く(8)ー

1. 始めに

前報(8)に引き続き、ベートーベンのアナログ盤を試聴していきます。

2. アナログシステムについての改善の試聴方法

試聴は LINN LP-12 のシステムでアクセサリ関係も最新情報に基づいて実施し、要時 Garrad 401 のシステムも加えます。最新の状況は、[再生経路と変更点 4](#)に要約しています。なお、この報告からは、バイワイアリングのスピーカーケーブルにケーブルチューナーが装着されています。

今回から LP-12 の改造と調整に出しますので、Garrad 401 を使用し、ベートーベン
の弦楽四重奏曲を聴いていきます。

今回取り上げる盤は、次のアナログ盤です。

DENON OX-7105-ND

弦楽四重奏曲第 1 番へ長調作品 18-1

弦楽四重奏曲第 5 番イ長調作品 18-5

スメタナ四重奏団

3. アナログシステムについての改善結果の試聴結果

ベートーベンの初期の弦楽四重奏曲で、初期の PCM 録音ですので、音質に多くは望めませんが、すっきりとした聴きやすい音で録音されています。

弦楽四重奏曲第 1 番はベートーベンの最初の弦楽四重奏曲ですが、しっかりしたベートーベンらしい構成で完成度が低いということはありません。

スメタナ四重奏団の演奏は、過度の緊張感をもたらすことなく、ある時は軽やかに、ある時はしっとりと弦楽四重奏曲の良さを味わさせてくれます。

4. まとめ

アナログシステムの再構成の結果、古い PCM 録音曲でも、弦楽四重奏曲の味わいを発揮できるようになりました。

以上